歩いて知ろう！

大山学講座
『歴史道（伯耆往来）ウォーキング』

7月3日（日）に、第2回大山学講座「歴史道（伯耆往来）ウォーキング」を行い、10人が参加しました。

講師は名和公民館サークル「名和歴史研究会」の金田千義さん、高島信平さん。雨が降ったため、屋内で座学を行いました。

幸いにも一時間後に、雨が上がりウォーキングに出発。当初の大雀～御来屋のコースを短縮して、途中の歴史的、文化的史跡についての説明、解説を聞きながら歩きました。

富長では、富長神社や富長城跡を散策。御来屋の住吉神社の拝殿では「御来屋宿の絵馬」や「児玉玉立の墨書」などを鑑賞しました。貴重な文化遺産を観ることができてよかったという声も聞かれました。

普段、車で通りすぎてしまうことが多い場所だけに、参加者は「新しい発見があった」と満足した様子でした。

▶講師の解説に聞き入る参加者のみなさん

まちのたから（18）～文化財室通信～ ハマナス自生南限地帯の巻

今回は、松河原のハマナス自生南限地帯（天然記念物）を紹介します。

ハマナスはバラ科の植物で、1～1.5mに成長する低木です。5～8月に開花し、バラによく似た濃いピンク色の花を咲かせ、8～10月に実を結びます。名前の由来は、果実が梨に似た形をしていることから「ハマナシ」と呼ばれ、それが訛ったものと言われています。朝鮮半島からカムチャッカ半島、ベーリング海沿岸にかけて分布する北方系の植物で氷河時代に寒冷地より南下し、こちらに根づいたと考えられています。

ハマナスは一般的には砂地に生えますが、大山町松河原の下市川河口のハマナスは両岸に（東側350・42㎡、西側57・07㎡）あって、転石の中に根をのばし自生しています。その貴重さから、「ハマナス自生南限地帯」として1983（昭和58）年7月に、国指定の天然記念物に指定されました。

毎年初夏になると鮮やかな花が咲き、訪れた人々の目を楽しませてくれます。大山町の「町の花」にも選定されています。

以前は青年団によって清掃活動が行われていました。現在は大山町観光協会中山支部を中心とする地元ボランティアの皆さんによって清掃活動が行われています（写真は今年6月25日の作業の様子です）。

これからも清掃活動などにより、樹勢の維持を図りながら、大山町の貴重な文化財として、この「ハマナス自生南限地帯」を後世に伝えていきたいものです。

（人権・社会教育課文化財室）

▲ハマナス自生南限地帯の清掃活動（大山町松河原）